

## ■国際シンポジウム

### 「La producción de los espacios rituales en las regiones de la zona sur de los Andes」

(南アンデスの儀礼空間の生成)

松本雄一 (山形大学)

2015年2月11日(水)、東京工業大学キャンパス・イノベーションセンターにおいて、「La producción de los espacios rituales en las regiones de la zona sur de los Andes」(南アンデスの儀礼空間の生成)が開催された。本シンポジウムの主催は、山形大学人文学部 新学術領域研究「古代アメリカの比較文明論」計画研究 A03「アンデス比較文明論」(研究代表者：坂井正人)、共催は国立民族学博物館 科学研究費補助金基盤研究 (S)「権力の生成と変容から見たアンデス文明史の再構築」(研究代表者：関雄二)、協力は古代アメリカ学会であった。

今回のシンポジウムでは、古代アンデス文明の儀礼空間がテーマとなった。近年の考古学において儀礼空間は、その空間における実践によって多様なアイデンティティと権力が生成される動的な場として注目されている。本シンポジウムにおいては、こうした近年の動向を踏まえつつもより実証的なアプローチを目指し、儀礼空間の具体的な生成過程に焦点が当てられた。

南アンデスは先スペイン期を通じて多様な社会と儀礼空間が展開した地域であり、本シンポジウムの発表者はそのいずれもが儀礼空間の調査を行い最新の考古学データを有している。これに対し、出席した日本人研究者はペルー北部における調査経験を有しており、長年にわたって北部山地で蓄積されてきた日本調査団のデータを用いてアンデス北部と南部の比較が試みられた。これまで対話が少なかった研究者の組み合わせであったが、数多くの共通の問題意識が確認された貴重な機会となった。使用言語はスペイン語であるにもかかわらず計10名が参加した。

坂井正人(山形大学)と関雄二(国立民族学博物館)による趣旨説明の後、5人の研究者が発表を行った。発表者は、発表順にアレクセイ・ヴラニッチ(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)とアンドリュー・ロディック(マクマスター大学)、ジョン・ジャヌセック(ヴァンダービルト大学)、坂井正人(山形大学)、松本雄一(山形大学)であり、関雄二(国立民族学博物館)が総合司会を担当した。

最初にアレクセイ・ヴラニッチが、「法医学的 (forensic)」考古学というアプローチを提示し、ティワナク遺跡におけるこれまでの復元の問題点を指摘した。数多くの恣意的な復元の誤りを取り除いた結果、ティワナク遺跡における儀礼空間が確立した時期が形成期にさかのぼるという説が提示された。アンドリュー・ロディックは、タラコ考古学プロジェクトが長年にわたって蓄積したデータの中から、建築内での饗宴の痕跡に焦点を当て、儀礼化のプロセスにおける社会的記憶の生成を儀礼空間の変容と関連付けて論じた。続くジョン・ジャヌセックはコンコ・ワンカネ遺跡における最新の調査成果より、従来ティワナクの二次センターとして扱われることが多かった同遺跡が実際には形成期後期に対応する複数の共同体からなる政体の一つであったと論じた。さらに、このような儀礼のあり方を共有する政体間の相互作用がティワナク遺跡における都市化を生んだという視点が提示された。坂井正人は2009年から2014年に行われたナスカの地上絵における調査データをもとに、儀礼空間としての地上絵の通時的変化を論じ、形成期における地上絵の分布が当時の社会組織を反映している可能性を指摘した。最後に発表した松本雄一は、高地のカンパナユック・ルミにおける最新の調査成果を提示し、居住域とされる場所における儀礼空間が神殿の出現と連動しており、双方で行われた儀礼行為が互に関連付けられていたと論じた。それぞれの発表後には、質疑応答の時間が設けられ、方法論、解釈の枠組み、さらには時期同定の妥当性に至るまでの幅広いテーマで活発な討論が繰り広げられた。

主催：国立民族学博物館

科学研究費補助金基盤研究 (S)

「権力の生成と変容から見たアンデス文明史の再構築」(研究代表者：関雄二)

共催：山形大学人文学部

新学術領域研究「古代アメリカの比較文明論」計画研究 A03

「アンデス比較文明論」（研究代表者：坂井正人）

協力：古代アメリカ学会